

## 小・中・高養護教諭 専門問題例

例1 次の文は、「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」(答申)(平成20年1月17日 中央教育審議会)の一部である。次の(a)～(n)にあてはまる語句を答えなさい。

養護教諭の職務は、学校教育法で「(a)」と定められており、昭和47年及び平成9年の保健体育審議会答申において主要な役割が示されている。それらを踏まえて、現在、救急処置、(b)、疾病予防などの(c)、(d)、健康相談活動、(e)、(f)などを行っている。

近年、社会的な問題となっている(g)や(h)などへの対応に当たっては、すべての教職員がそれぞれの立場から連携して組織的に対応するための校内組織体制の充実を図るとともに、家庭や、地域の関係機関等との連携を推進していくことが求められている。養護教諭はその職務の特質から(g)や(h)などの早期発見・早期対応を図ることが期待されており、国においても、これらの課題を抱える子どもに対する対応や留意点などについて、養護教諭に最新の知見を提供するなど、学校の取組を支援することが求められる。

(i)は、学校保健と学校全体の活動に関する調整や(j)の作成、学校保健に関する組織活動の推進((k)の運営)など学校保健に関する事項の管理に当たる職員であり、その果たすべき役割はますます大きくなっている。

(k)は、学校における健康に関する課題を研究協議し、(l)を推進するための組織である。(k)は、校長、養護教諭・栄養教諭・学校栄養職員などの教職員、(m)、学校歯科医、(n)、保護者代表、児童生徒、地域の保健関係機関の代表などを主な委員とし、(i)が中心となって、運営することとされている。

例2 「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」(平成21年3月 文部科学省)に示されている内容について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 健康観察の目的を3つ列挙しなさい。

(2) 次の(a)～(i)にあてはまる語句を書きなさい。

ADHDは①(a)・衝動性、②(b)が基本症状である。①又は②、あるいはその両方がある、その症状が子どもの(c)にすぐわないほど程度が強いこと、7歳以前から症状があること、教室と家庭のように異なる場面で認めることなどを満たすものをいう。ADHDを日本語で(d)という。

てんかんとは、てんかん発作を繰り返す疾患であるが、発作の症状は(e)や(f)に限らず様々なものが含まれる。てんかん発作は(g)の異常な(h)によるものであり、(i)な原因によるものではない。

例 3 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

- (1) 歯の脱臼（完全脱臼）がみられた場合、とるべき対応を列挙しなさい。
- (2) 気管支ぜんそくの発作が起こった場合、重症にならないようにする対処について列挙しなさい。

例 4 肥満と糖尿病について、次の問いに答えなさい。

- (1) 肥満度の計算式とその判定について( a )～( g )にあてはまる適切な語句や数字を書きなさい。

$$\text{肥満度} = [ ( a ) \text{ kg} - ( b ) \text{ kg} ] \div ( b ) \text{ kg} \times 100 (\%)$$

上記の式から肥満度を計算して、これが( c )であれば肥満傾向、( d )であればやせ傾向とする。肥満度の判定は、肥満度が( e )を軽度の肥満、( f )を中等度の肥満、( g )を高度の肥満と判定する。

- (2) 糖尿病について次の文中の( a )～( i )にあてはまる適切な語句や数字を書きなさい。

健康な人の血液の中のブドウ糖量は常に( a )～( b )mg/dlのレベルに保たれている。この調節を行っているホルモンの中で、最も重要なものが( c )から分泌される( d )である。( d )の分泌量が少なかったり、作用が弱くなったりすると、血中のブドウ糖を利用したり、( e )や( f )として蓄積することがうまくできなくなり、( g )が上昇する。そして、その( g )が( h )mg/dlを超えると尿中に( i )が排泄される。これが糖尿病である。

例 5 次の文は、小学校学習指導要領（平成20年6月告示）「体育」「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の一部である。( a )～( i )にあてはまる語句を答えなさい。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (5) 保健の内容のうち食事、( a )、休養及び( b )については、( c )の観点も踏まえつつ健康的な( d )の形成に結び付くよう配慮するとともに、保健を除く第( e )学年以上の各領域及び( f )に関する指導においても関連した指導を行うよう配慮すること。
- (6) 保健の指導に当たっては、( g )を活用する( h )を取り入れるなどの( i )の工夫を行うこと。

小・中・高養護教諭 正答例（その1）

問題番号		正 答			
例 1	a	児童生徒の養護をつかさどる			
	b	健康診断			
	c	保健管理			
	d	保健教育			
	e	保健室経営			
	f	保健組織活動			
	g	いじめ			
	h	児童虐待			
	i	保健主事			
	j	学校保健計画			
	k	学校保健委員会			
	l	健康づくり			
	m	学校医			
	n	学校薬剤師			
例 2	(1)	子どもの心身の健康問題の早期発見・早期対応を図る。			
		感染症や食中毒などの集団発生状況を把握し、感染の拡大防止や予防を図る。			
		日々の継続的な実施によって、子どもに自他の健康に興味・関心をもたせ、自己管理能力の育成を図る。			
	(2)	(a)	多動（性）	(b)	不注意
		(c)	発達段階	(d)	注意欠陥多動性障害
		(e)	意識喪失	(f)	けいれん
(g)		大脳	(h)	神経活動	
(i)		心理的			
例 3	(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本人の気持ちを落ち着かせる。</li> <li>・ 脱臼した歯の歯冠部を持つように注意する。 （歯根には手をふれない。こすらない。）</li> <li>・ 乾燥させないように「市販の保存液」「牛乳」に保存して速やかに歯科医療機関へ連れて行く。</li> <li>・ 保護者へ状況説明、連絡等</li> </ul>			
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安静に楽な姿勢をとらせる。（座位）</li> <li>・ 理学療法（ゆっくり腹式呼吸・排痰）勧める。</li> <li>・ 急性発作治療薬の吸入、内服 （発作時の対応について本人に確認しながら、持参薬等の使用について検討。）</li> <li>・ 医療機関搬送</li> <li>・ 保護者への状況説明、連絡等</li> </ul>			

小・中・高養護教諭 正答例（その2）

問題番号		正 答
例 4	(1)	a 実測体重
		b 身長別標準体重
		c +20%以上
		d -20%以下
		e +20%以上30%未満
		f +30%以上50%未満
	(2)	a 80
		b 120
		c 膵 臓
		d インスリン
		e グリコーゲン（脂肪）
		f 脂 肪（グリコーゲン）
		g 血糖値
		h 170
i 糖		
例 5	a 運動	
	b 睡眠	
	c 食育	
	d 生活習慣	
	e 3	
	f 学校給食	
	g 知識	
	h 学習活動	
	i 指導方法	